

国語(現代文)

名古屋大学 農学部、医学部 (保健学科) (前期) 1/2

<総括>

出題数 現代文 1題

試験時間 45分

吃音などの障害を持つ意味の豊かさについて論じた文章からの出題。昨年と比べて文章量が減少し、内容も比較的読みやすいものだった。設問は、漢字の読み書き、記述問題、選択肢問題に加え、昨年には出題されなかった、抜き出し問題と段落分けの問題が出題された。記述問題は昨年より設問数、記述量ともに減少した。全体としての難易度は昨年と同様である。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	「豊かな弱さのために」(伊藤亜紗)
頻出度合 ・的中等	普通
分量 前年比較	分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 昨年は4128字、今年は3453字で675字減少
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	漢字の読み書き	標準	特に難しいものはない。
		問二 (1)	客観	やや易	傍線部を含む第4段落から第6段落までを、選択肢と照らし合わせればよい。
		(2)	抜き出し	やや易	設問の条件を正確に踏まえれば容易に見つかる。
		問三	記述	やや難	設問で指示されている「交差性」という言葉を用いて傍線部に対応する内容を説明するのがやや難しい。
		問四	抜き出し	標準	傍線部を含む段落の3つ後の段落に該当する一文がある。傍線部との対応を丁寧に確認する必要がある。
		問五	客観	標準	傍線部の内容が過不足なく説明されているものを選ぶ。

国語(現代文)

名古屋大学 農学部、医学部 (保健学科) (前期) 2/2

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
		問六 (1)	記述	標準	傍線部の文脈を正確に踏まえて解答を作成する。
		(2)	記述	標準	傍線部の文脈を正確に踏まえて解答を作成する。
		問七	段落分け	標準	筆者の挙げる事例と、対比の展開に着目して本文全体の構成を捉えればよいが、やや決定しにくい。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題集や過去問を利用して、評論に触れて読解力を養うとともに、記述問題の練習を十分に積んでおくこと。漢字の読み書きについても対策を怠らないようにしておくこと。